

2つの個展開催！

中村 光美さん 作品展 「世界が輝いて見えるとき」

(ホームスクーラー。東京芸大絵画科油画専攻卒。今年9月に銀座 NICH ギャラリーで個展を開催)



銀座 NICHE ギャラリーで個展初日を迎えた
中村光美さん (9月11日)

「ある日、夕日を見ながら、『きれいだ！形に残したい！この夕日を創造された神さまの愛や栄光を絵を通して伝えたい！』と思いました。その思いを胸に空や風景や光を描いています」という中村光美さん。

チア・にっぽん絵画コンテストの最優秀受賞者でもあり、チア・サマーキャンプでは、15 m以上の崖から滝つぼにジャンプした勇者、ホームスクーラーの先輩でもあります。銀座での個展に続き、東京コンベンション会場にて、個展を開催していただきます。



「海」



「Untitled」

2つの個展開催！

森山 陽介君 メモリアル写真展 「空の鳥、野の花」



チア・にっぽん写真コンクール最優秀作品賞 「翔べ！」
森山 陽介

「水面に映る景色のゆらめき。ゆったりとした時間を切り取るようにサギが水面をけて羽ばたきました」

森山陽介君について

1992年9月東京生まれ。生まれた時から左半身に軽度の麻痺を伴う。

小学生の時、友人の影響で野鳥に興味を持つようになる。10歳の時、自ら希望して受洗。中学のいじめが原因で場面緘黙（極度に緊張し言葉を発せなくなる）となる。

母が、父の単身赴任先の軽井沢にあるチャーチスクールを見つけ、転校し、親子三人長野で暮らす。回復へ向かうが、てんかんの症状が現れる。

父の転勤で東京へ戻り、ホームスクーリングをベースにフリース

クール高等部を卒業。野鳥観察や写真撮影、野鳥の会、葛西臨海公園の環境整備のボランティアなど活動の幅を広げる。

意識障害の症状が進み発作等も増える。2017年6月、チア・にっぽん写真コンテスト最優秀賞受賞。2020年6月、病のため召される。

イエスさまに頼り、希望を見出す陽介君。作品「沈まぬ太陽」には以下のコメントを添えて、チア・にっぽん写真コンテストに応募されていた。

イザヤ書 60章 20節「あなたの太陽はもう沈まず、あなたの月はかけることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。」病に苦しみ、くじけそうになった日に窓から見た夕焼けです。この太陽を見た時、希望を感じました。



森山陽介君 — チア写真コンクール受賞作品前にて
(2017年6月)